

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

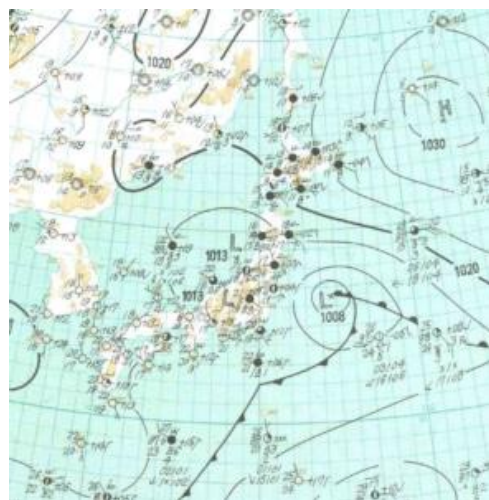
(昭和48年9.23糸魚川水害) 昭和48 (1973) 年9月23日から24日にかけての大雨

大気の状態が非常に不安定 糸魚川市で集中豪雨

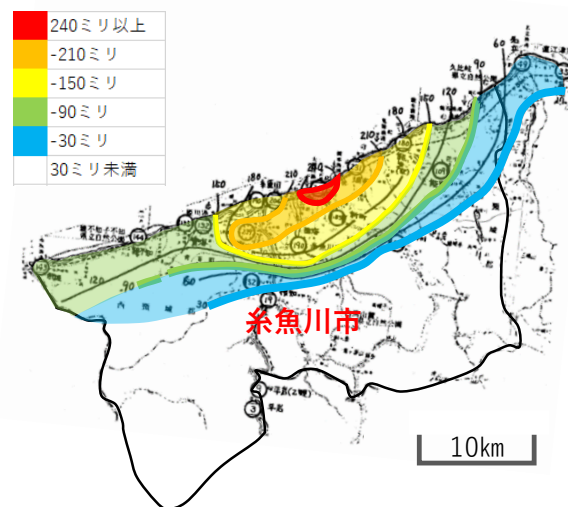
【概要】

昭和48 (1973) 年9月23日から24日にかけて、低気圧が日本海をゆっくり東に進み、低気圧に向かって暖かい空気が入り、また上空には強い寒気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。この低気圧は、千島近海に中心を持つ高気圧にはばまれ、動きが遅く停滞気味となった。発達した積乱雲が停滞した糸魚川市の海岸部を中心に大雨となり、100ミリ以上の大雨の地域は海岸線に沿って幅数km、長さ40kmぐらいの狭い地域に限られた。23日18時から22時にかけて、1時間に40ミリから60ミリの雨が降り続き、局地的には総雨量が200ミリを超える集中豪雨となった。

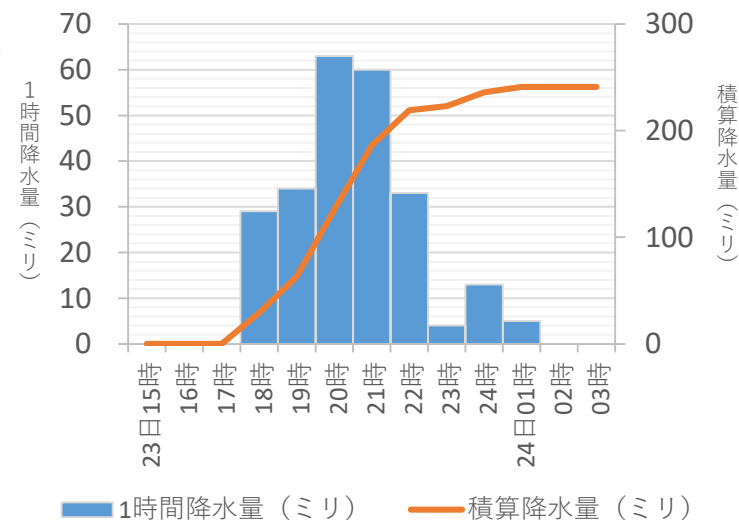
この大雨により、糸魚川市で死者・行方不明者2人、土砂崩れなどにより鉄道、国道8号線の不通、家屋の浸水などの被害が発生した。(人的被害は「新潟県地域防災計画」資料編より、被害概要は新潟地方気象台異常気象速報による)



地上天気図 昭和48年9月23日21時



昭和48年9月23日09時から24日09時までの糸魚川市の積算降水量 (ミリ)



糸魚川市姫川第七発電所の1時間降水量の推移